

袖ヶ浦市 <sup>ふみわき</sup> 文脇遺跡

袖ヶ浦市文脇遺跡で大量の渡来銭が出土し、全体を土ごと切り取って屋内に移動させたこと、大よその枚数や至大通寶を最新銭としていたことについて、前回までの速報でお知らせしました。今回は判明した銭種のうち珍しいものについてお知らせします。



四銖半両 (よんしゅはんりょう)

銭種が明らかになったものの中では一番古い。中国・前漢の文帝が紀元前175年から鑄造・発行した。



五銖 (ごしゅ)

中国の古代に流通した貨幣。紀元前118年に前漢の武帝が最初に鑄造させた。その後、後漢、蜀、魏、西晋、東晋、齊、梁、陳、北魏、北斉、隋でも鑄造され、これは隋のもの。他に後漢のものも出土している。



富壽神寶 (ふじゅしんぼう)

古代日本で鑄造された十二種類の銭貨である「皇朝十二銭」のひとつ。嵯峨天皇の弘仁九年(818年)から鑄造、発行された。



島 錢 (しません)

模造品。造られた場所や名前の由来もわからない。  
これは開元通寶をまねたものだが、独特の書体で漢字になっていない。

## 展示のお知らせ

今回お知らせした4枚は、7月 2 日から開催される平成 23 年度出土遺物巡回展で展示されます。

平成 23 年度 出土遺物巡回展 「古墳に眠る石枕」は、千葉県立房総のむら他 5 館で順次開催します。

トピックスとして、新指定県有形文化財 吉原三王遺跡出土墨書土器の展示、及び文脇遺跡出土埋蔵銭と取り上げ方法の展示、遺構複製の展示を行います。期間・開催館等、詳細は以下のホームページをご覧ください。

千葉県教育振興財団 文化財センターホームページ

[http://www.echiba.org/tenji\\_gensetsu.html](http://www.echiba.org/tenji_gensetsu.html)

